

令和4年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人八尾市文化振興事業団	
施 設 名	八尾市文化会館（プリズムホール）	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	21,156	(千円)
	公 演 事 業	15,244 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,423 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	4,489 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	地域の魅力を活かした本物の舞台作品の創造・発信事業1 リニューアルオープニングイベント 河内ゴスペル パワフルステージ in プリズム (略称:「河内ゴスペル」)	令和4年7月30日 (土)	作曲・構成・演出: 玉麻 尚一 出演: ドリーン・アイヴィ/美好家肇/山本真一郎/公募クワイア	目標値	800
		八尾市文化会館 大ホール		実績値	537
2	地域の魅力を活かした本物の舞台作品の創造・発信事業2 リニューアルオープニングプログラム やお発高安能未来継承プロジェクト令和に蘇る能「綱」& 創作作品「八尾」披露公演 (略称:「高安能プロジェクト」)	令和5年3月21日 (火・祝)	出演: ●能「綱」: 山中雅志、原大、原陸、山階彌右衛門 他 ●創作作品「八尾」: 飯富雅介 他	目標値	835
		八尾市文化会館 大ホール		実績値	396
3	地域の魅力を活かした本物の舞台作品の創造・発信事業3 リニューアルオープンプログラム笑福亭鶴瓶、まご弟子の笑助と落語会	令和4年7月31日 (日)	【出演】笑福亭鶴瓶、笑福亭笑助	目標値	1,250
		八尾市文化会館 大ホール		実績値	1,260
4	子どもの豊かな育ちを促進する舞台芸術創造・発信事業 親と子のはじめての演劇体験 プリズムチャームプロダクションシリーズ「タジタジ大どろぼうとオロオロ魔法使い」 (略称:「親と子の演劇体験」)	令和5年2月16日 (木) ~19日 (日)	脚本・演出: 佃典彦 出演: 隈本晃俊、武田操美、や乃えいじ、植木歩生子、F0ペレイラ宏一朗 他	目標値	1,598
		八尾市文化会館 小ホール		実績値	1,464
5	日本のトップレベルの芸術団体との連携による創造・発信事業1 リニューアルオープンプログラム 文学座地域拠点契約事業 文学座公演「ガラスの動物園」	令和4年10月20日 (木)	出演: 塩田朋子・梅村綾子・亀田佳明・池田倫太郎 演出: 高橋正徳	目標値	285
		八尾市文化会館 小ホール		実績値	237

6	日本のトップレベルの芸術団体との連携による創造・発信事業 2 リニューアルオープンプログラム 大阪フィル地域拠点契約事業 大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会「さいかい」	令和5年2月5日 (日)	指揮：大井剛史、ソリスト：大谷康子（ヴァイオリン） チャイコフスキー交響曲第5番他	目標値	1,052
		八尾市文化会館 大ホール		実績値	1,154
7	優れた舞台芸術の創造・発信事業 リニューアルオープンプログラム 高嶋ちさ子 with Super Cellist	令和5年1月12日 (木)	出演：高嶋ちさ子、9人のチェリスト プログラム：タイスの瞑想曲 他	目標値	1,048
		八尾市文化会館 大ホール		実績値	1,156

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	地域の魅力の担い手次世代養成事業1 吹奏楽クリニック	令和4年5月～令和5年3月	内容：八尾市内の学校吹奏部を対象に、プロの管楽器演奏者が指導を行った。	目標値	のべ参加者数 ①350名 ②600名 ③500名
		八尾市文化会館 大ホール 他		実績値	のべ参加者数 ①299名 ②559名 ③393名
2	地域の魅力の担い手次世代養成事業2 子ども河内音頭講座 ①唄・楽器の講習会 ②踊り方講習会	令和4年4月17日～令和5年3月12日の日曜日	内容：子どもを対象に地元の伝統芸能＜河内音頭＞の唄・楽器・踊りの講座を実施。	目標値	①20名 ②15名 延べ参加者数 420名
		八尾市文化会館練習室		実績値	①19名 ②12名 延べ参加人数 302名
3	舞台技術の次世代養成事業 プリズムサマーワークショップステージテクニカルワークショップ	令和4年8月12日(金)・13日(土)	内容：中学生から22歳までを対象に舞台技術の基本の体験を実施。	目標値	8名
		八尾市文化会館 大ホール・小ホール		実績値	11名
4	地域とつながる大学連携事業	令和4年7～12月	内容：社会包摂対象者をターゲットとしたコンサートの企画・出演をインターンシップとして実施。	目標値	合計60名程度
		八尾市文化会館 他		実績値	合計64名
5	文化サポーター養成事業 プリズム市民サポーター活動	令和4年5月1日(日)～令和5年3月31日(金)	内容：八尾市文化会館の芸術文化事業の運営や広報に参加しする市民ボランティア組織を運営。	目標値	登録者数28名 延べ参加者数580名以上

		八尾市文化会館、市内 各所		実績値	登録者数 25名 延 べ参加者 数 559名
--	--	------------------	--	-----	---------------------------------

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	まちの魅力発見・発信事業 ①プレオープンプログラム 八尾市吹奏楽フェスティバル スペシャル～祝・再開記念 響け！歓喜のメロディ～ ②「吹奏楽のまち 八尾」の魅力発信！広がるプロジェクト (略称：「吹奏楽フェス」)	令和4年7月17日 (日)	出演：八尾市内学校吹奏楽部、一般バンド／ゲスト①大島弥州夫（大阪フィルハーモニー交響楽団 他	目標値	①吹奏楽フェス 2,800名 (入場者2,050名、演奏者750名)
		八尾市文化会館 大ホール		実績値	①吹奏楽フェス 2,686名 (入場者674名、演奏者2,012名)
2	まちの魅力発見・発信事業 2 河内音頭やおフェスタ	令和5年3月19日 (日)	内容：八尾で活躍する河内音頭取り、当館で育成したこども河内音頭大使による河内音頭を実演した。	目標値	入場者数930名・出演参加者数70名
		八尾市文化会館 大ホール		実績値	入場者数698名・出演参加者数127名
3	子どもの素敵な劇場体験事業 ①プリズムサマータワーワークショップ バックステージ・ツアー ②社会見学 ようこそ！プリズムホール	令和4年8月13日 (土)	内容：舞台機構を紹介。社会見学は学校と日程調整がつかなかったため、紹介動画を製作し配信した。	目標値	①30名 ②24校
		八尾市文化会館 大ホール		実績値	①62名 ②希望校なし
4	舞台の感動リーチ事業 芸術文化の課外授業 ①劇団文学座による演劇ワークショップと読み聞か	令和4年10月31日(月)～令和5年2月2日(木)	①講師：文学座演出家（代替実施） ②講師：大阪フィルハーモニー交響楽団楽団員 ③講師：佃典彦・三井田明日香	目標値	1,000名

	せ ②大阪フィルハーモニー交響楽団による音楽ワークショップ ③プリズムチャームプロダクションシリーズ出演者等による演劇ワークショップ	八尾市内各小中学校		実績値	1,127名
5	つながり交流リーチ事業1 誰もがアートを楽しむ機会を創出するアウトリーチ事業	令和4年10月8日(土)～令和5年1月28日(土)	講師：八尾人形劇連絡会・打楽器奏者上沼健二・金姫玉・金姫玉韓国伝統舞踊研究所生	目標値	130名
		母子ホームルフレ八尾他		実績値	77名※
6	つながり交流リーチ事業2 ①八尾市立病院ロビーコンサート②障がいのある方も赤ちゃん連れの方もいっしょに！フレンドリーコンサート	①令和5年3月26日(日)(収録) ②令和4年8月24日(水)(実演)	出演：①大阪フィル管楽器奏者 高見信行・久宝寺中学校吹奏楽部 ②相愛大学音楽学部 フルート(7名)	目標値	①150名 ②200名 (各公演100名)
		①八尾市立久宝寺中学校(収録) ②八尾市文化会館レセプションホール		実績値	①255名 ②118名
7	舞台の感動普及事業1 地域拠点契約事業 大阪フィル八尾演奏会プレ企画プレミアムトークライブ in プリズムホール ～ティータイムコンサート～大谷康子 素敵なアフタヌーンはいかが？	令和4年11月23日(祝・水)	出演：大谷康子(大阪フィルハーモニー交響楽団ソリスト)・小山さゆり(ピアノ)	目標値	50名
		八尾市文化会館レセプションホール		実績値	50名
8	舞台の感動普及事業2 地域拠点契約事業文学座ワークショップ	令和4年8月9日(火)～9月11日(日)	講師：文学座 高橋ひろし・磯田美絵・塩田朋子 池田倫太郎・梅村綾子・同演出家 高橋正徳	目標値	30名
		八尾市文化会館研修室他		実績値	55名
9	舞台の感動普及事業3 ①避難訓練講談会～リニューアルしたプリズムホールで、何かが起こる!!!	①令和4年12月8日(木)／②令和5年1月22日(日)	内容：①公演中の災害発生を想定した避難訓練を実施。②地元八尾出身の講談師の各賞受賞独演会。	目標値	①160名 ②260名

	～②八尾市文化新人賞・文化庁芸術祭大衆芸能部門新人賞 受賞記念 旭堂南龍独演会	八尾市文化会館小ホール		実績値	①45名 ②171名
10	交流を生み出すアートなにぎわい創出事業	令和4年7月30日(土)～令和5年3月18日(土)	出演：八尾のこども音頭大使、八尾児童合唱団&卒団生ハミール、八尾市ダンス協会八尾市文化連盟 他	目標値	300名
		八尾市文化会館 オーブンコーナー 他		実績値	1,516名

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価												
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。												
<p>【1. 総括評価】達成した。</p> <p>新たに制定された八尾市芸術文化基本条例を踏襲し、また目的をより明確化するために、当館のミッションを3点に再整理した。地域の特性としては、改修後のリニューアルオープン(以下「R0」)記念のタイミングから通年で祝祭色・地域色豊かな合計22事業をミッションに基づき企画し、当初の予定通り実施した(図表参照)。</p> <p>【2. ミッション・事業目的、地域の特性と事業の結びつきについてとエビデンス】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>プリズムホールミッション</th> <th>事業の別</th> <th>事業区分の別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> 感動と生きる意欲を生み出す 本物の作品の創造と発信 </td> <td> ・公演事業 ・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> i 地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信 ii 子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信 iii 日本トップレベルの芸術団体との連携 iv 優れた芸術作品の鑑賞機会の拡充 v これらを普及・啓発 </td> </tr> <tr> <td> つながりと交流が生み出す 生き生き市民のまちづくり </td> <td> ・人材育成事業 ・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> i 地域の次世代を養成 ii 地域とつながる大学との連携 iii 生き生き文化サポーターを養成 iv 子どもの素敵な劇場体験の創出 v つながり・交流をリーチ(届ける) vi 交流を生み出すアートなにぎわいの創出 </td> </tr> <tr> <td> 地域の魅力の発見・発信による シビック・プライドの醸成 </td> <td> ・人材育成事業 ・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> i 地域の魅力の担い手を養成する ii まちの魅力の発見・発信 </td> </tr> </tbody> </table> <p>① ミッション1実現のために本格的な公演事業を、地元の魅力を促進するなどの5区分11事業実施。事例: R0記念の新企画「河内ゴスペル」は、著名な音楽家によりゴスペルと地元の河内音頭を融合させ、市民等のべ235人による参加・実演、来場者約550人で、皆が感動を共有した。</p> <p>② ミッション2実現のための人材養成・普及啓発事業を6区分7事業実施。事例: 「交流を生み出すアートなにぎわい創出事業」では、R0記念とその後の定期的開催で、劇場の新たなオープンコーナー等を使い、多くの市民がいきいきと自己表現した。1,516人のプロ・アマ、老若男女、分野も超えた参加者の交流が広がった。</p> <p>③ ミッション3実現のために人材養成・普及啓発事業を2区分4事業で実施。事例: 「吹奏楽フェス」では、R0記念として出演者・参加者約2,700人が集合、これまで当館で培ってきた吹奏楽活動が再開することをともに喜び、地域愛がより深まった。</p> <p>【3. 予定通りすすめられたか】普及啓発事業で、感染症の影響によりアウトリーチ先1件からの辞退、行事時期に重なった学校向け演劇ワークショップを時期・内容を変えて別企画で開催した以外は全て予定通り実施した。</p> <p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>【1. 総括評価】認める。</p> <p>【2. 文化的意義】認める。 事例1: ミッション1と3は、主に文化的意義のある事業群であり、「親と子の演劇体験」では、当館オリジナルの演劇作品を創作し、市内小学校招待公演と一般公演で子どもたちに夢を与える舞台を生で鑑賞する機会を提供した。事例2: ミッション3「高安能プロジェクト」では地域にゆかりのある能の演目を地元の伝説に基づいて復元し、地域の魅力の向上を図った。エビデンス: アンケートより、ミッション1での満足度は、目標値85%に対して実績は95%、ミッション3での「八尾のまちはいいなと思った」人の割合は、目標値25%に対して実績は57.7%と目標を達成した。分析: 地域文化の芸術水準が高まり、地域に魅力を感じ、心が豊かになった人を増加させた。</p> <p>【3. 社会的意義】認める。 事例: ミッション2は、主に社会的意義を持つ事業群であり、「誰もがアートを楽しむ機会を創出するアウトリーチ事業」や「芸術文化の課外授業」では、不登校児スクール、地域在住外国人が通学する夜間中学校、市内小・中学校等に赴き公演事業やワークショップを実施した。「フレンドリーコンサート」では、劇場で障がい者・妊婦・乳幼児を対象とするコンサートを実施し、「八尾市立病院ロビーコンサート」では、コロナ感染対策として入院患者を対象にしたコンサートを病室へ配信した。エビデンス: 鑑賞者の満足度の目標値80%に対して実績は97%と目標を達成した。分析: 様々な事情で芸術文化に日頃つながりを持たない人に芸術が身近にある楽しさを感じてもらう機会を提供した。</p> <p>【4. 経済的意義】認める。 事例: アンケートに経済波及効果をはかる質問を設定しており、助成を受けたR0記念事業の多くで地域の店舗での飲食・買い物の機会につながった。エビデンス: R0記念事業の全アンケートより、公演前後に消費活動をした人の割合は60.3%と昨年度の全事業平均より12.3%上昇した。分析: R0記念事業の実施により、消費行動とまちのにぎわいにつながり、経済波及効果が生まれた。</p>			プリズムホールミッション	事業の別	事業区分の別		感動と生きる意欲を生み出す 本物の作品の創造と発信	・公演事業 ・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> i 地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信 ii 子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信 iii 日本トップレベルの芸術団体との連携 iv 優れた芸術作品の鑑賞機会の拡充 v これらを普及・啓発 	つながりと交流が生み出す 生き生き市民のまちづくり	・人材育成事業 ・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> i 地域の次世代を養成 ii 地域とつながる大学との連携 iii 生き生き文化サポーターを養成 iv 子どもの素敵な劇場体験の創出 v つながり・交流をリーチ(届ける) vi 交流を生み出すアートなにぎわいの創出 	地域の魅力の発見・発信による シビック・プライドの醸成	・人材育成事業 ・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> i 地域の魅力の担い手を養成する ii まちの魅力の発見・発信
プリズムホールミッション	事業の別	事業区分の別										
	感動と生きる意欲を生み出す 本物の作品の創造と発信	・公演事業 ・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> i 地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信 ii 子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信 iii 日本トップレベルの芸術団体との連携 iv 優れた芸術作品の鑑賞機会の拡充 v これらを普及・啓発 										
つながりと交流が生み出す 生き生き市民のまちづくり	・人材育成事業 ・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> i 地域の次世代を養成 ii 地域とつながる大学との連携 iii 生き生き文化サポーターを養成 iv 子どもの素敵な劇場体験の創出 v つながり・交流をリーチ(届ける) vi 交流を生み出すアートなにぎわいの創出 											
地域の魅力の発見・発信による シビック・プライドの醸成	・人材育成事業 ・普及啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> i 地域の魅力の担い手を養成する ii まちの魅力の発見・発信 											

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【1. 総括評価】概ね達成した。

公演、人材養成、普及啓発の全9指標のうち6件が達成、3件が未達成であったが、そのうち2件は感染症の影響によるものであった。昨年度と比較すると同じ達成割合となった。

指標の達成状況

		R4年度		R3年度			
		数	割合	数	割合		
指標総数	9	達成	6	66.7%	6	66.7%	
		未達成	未達成	1	11.1%	2	22.2%
			感染症の影響で未達成	2	22.2%	1	11.1%

【2. 公演事業】概ね達成した。全3指標のうち、2件が達成、1件が未達成のため、「概ね」とした。

目標①平均集客率80%→実績75.5%で未達成
 目標②アンケート調査で「八尾のまちはいいなと思った」を選択する人25%→実績40.6%で達成
 目標③公演満足度85%→実績85%で達成
 [目標②について]

事例：「河内ゴスペル」では、八尾の河内音頭とアメリカのゴスペルを融合させた当館のオリジナル曲を作曲し、出演は、市内在住のアフリカ系アメリカ人のプロのピアニストと河内音頭の大師匠、ゴスペルシンガー、八尾市民を中心とした公募の市民ゴスペルクワイアの参加による、地域の魅力を活かし、R0をお祝いするオリジナルステージを創り上げた。**エビデンス**：この事業のアンケートの「八尾のまちはいいなと思った」人の割合が61.8%と驚異的な数字となった。



河内ゴスペル：八尾×河内音頭×ゴスペルの融合

[目標③について]

事例：「親と子の演劇体験」では、実力を有するプロの俳優・スタッフが八尾のまちに滞在して、子どもたちを中心に地域住民と交流しながら、当館オリジナルの演劇作品を創作した。八尾の素材を多く取り入れて鑑賞者に分かりやすく親しみが持てる内容とし、大人も子どもも楽しめる公演となった。**エビデンス**：公演後のバックステージツアーには、たくさんのお子もたちが目を輝かせて参加していた。これら関連企画も含めた参加満足度は89.2%と非常に高かった。



親と子の演劇体験（公演後のバックステージツアーの様子）

分析：これらにより概ね達成したと認められる。

【3. 人材養成事業】達成した。全3指標のうち、感染症の影響で未達成の2件を除く1件が達成した。

目標①吹奏楽と河内音頭の子ども向け育成事業の延べ参加人数1,870人→実績1,553人で未達成（吹奏楽指導の1回あたりの人数制限など、感染防止対策の影響による減）

目標②インターンシップとテクニカルワークショップ参加者の満足度90%→実績96.2%で達成

目標③ボランティア組織「プリズム市民サポーター」の延べ参加人数580人→実績559人で未達成（活動1回あたりの募集人数の制限など、感染防止対策の影響による減）

[目標②について]

事例：相互連携協定による相愛大学のインターンシップに関しては、これまでの「フレンドリーコンサート」への出演だけでなく、公演の表方等に就いて実地演習をした。また、近畿大学に関しても、吹奏楽フェスのゲスト出演に加え、授業の一環としての公演の表方業務体験など、校外学習をしてもらえた。**エビデンス**：毎年インターンシップの内容をブラッシュアップし、色々な経験の場を提供したことで、のべ112人の大学生に関わってもらえた。**分析**：単純な体験の場だけでなく、たくさんのお子もたちの機会を設けることで、満足度が向上したと思われる。目標①③に関しては、感染症の影響が無ければ達成できていたと分析する。

【4. 普及啓発事業】達成した。全3指標のうち、3件とも達成できた。

目標①対象アンケート調査で「八尾のまちはいいなと思った」を選択する人20%→実績41.6%で達成

目標②子どもや生きづらさを抱える人を対象にした事業の参加人数1,700人→実績1,779人で達成

目標③交流や体験する機会を創出する事業の参加満足度85%以上→実績86.1%で達成

[目標①について]

事例：「まちの魅力発見・発信事業」である吹奏楽と河内音頭のフェスティバルに関しては、感染症流行で出演できなかった人に出演機会を提供し、鑑賞できなかった市民に明るく元気な八尾の姿を発信することができた。

エビデンス：アンケートから「久しぶりに生演奏を聞いたが本当に素晴らしかった。終始鳥肌が立って中高生のエネルギーで元気が出た。感動した。」「久しぶりに河内音頭を聞いて、すっきりした。」などたくさんのお子もたちの感想をもらった。

分析：感染症流行で鑑賞や出演（体験）機会が減っている中、明るく元気な八尾のまちの良さを、事業を通して再認識していただくことができ、十分な達成度合いであったと分析する。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【1. 総括評価】達成した。申請事業 22 事業のうち全事業で事業期間は当初の計画通り適切に実施できた。

【2. アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。】達成した。

事業実施に関しては、企画制作会議の中で進捗管理を行っている。事業実施前に、詳細な広報計画も含めた企画書と、特に公演事業については、「チケット販売管理表」を作成し、会議で逐次報告、共有することで、進行と事業期間管理をした。

【事例】：「高安能プロジェクト」は、当初 1 月 15 日に実施することで確定していたが、主要な出演者の都合で日程が 3 月 21 日に変更になった。計画の再検討となったが、着手前であったのでうまく調整できた。また、共催者である「高安能未来継承事業推進協議会」やその協議会に属している団体等が「ARTS for the future!2」他の助成金を獲得することができたため、プレ企画として、東京の「梅若能楽学院会館」での高安能東京特別公演や 2 回の講座を名義共催事業として追加実施することとなった。これも含めて広報関係や協賛金獲得の働きかけなど、本公演に追加する形で業務が増えたが、全体として予定通りうまく進めることができた。



【エビデンス】：3 月 21 日という年度末の実施となったため、委託料の振込など本来であれば 1 ヶ月ほどの期間を要する精算行為を可能な限り短縮させることにより、当初の計画（期間）通り進めることができた。**【分析】**：その他の事業についても、感染拡大状況等も注視しながら臨機応変に対応し、事務処理等も含めて遅滞することなく、ほぼすべての事業で計画通りに進んだため、達成したと分析する。

【3. 当初の計画（助成金交付要望書）から大きな変更が生じたもの】

「子どもの素敵な劇場体験事業②社会見学 ようこそ！プリズムホール」ならびに「舞台の感動リーチ事業 芸術文化の課外授業①劇団文学座による演劇ワークショップと読み聞かせ」に関しては、実施可能日として提示した日程と学校行事とが重なってしまったために、学校からの応募が無く、どちらも代替え内容を実施することとなった。どちらも代替えの内容に合わせたスケジュールを再調整し、年度内に実施することができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【1. 総括評価】達成した。申請事業全 22 事業で事業費は当初の計画通り適切に実施できた。

【2. アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。】達成した。

事業費に関しても、当初の予算立てと予算執行管理のもと 17 事業については計画通りに実施できた（100 万円以下の事業予算で、±20%の乖離のあるものは除く）。既決予算に対し、助成金獲得状況や世時の影響も加味した上で、補正予算編成後確定している。予算執行管理と確認のため、半期・年末・年度末の年 3 回決算見込みを作成している。プロセスにおいては、制作会議において企画制作職員全員で協議し、上位決裁を受けている。

【事例】：「高安能プロジェクト」では、上記のとおり追加実施となった東京公演時に当館公演の申合せをすることができたため、出演者ほぼ全員の交通費がマイナスとなった。その分「FM 大阪」に依頼し特別番組を製作し放送してもらうなど、普段 PR できない層に情報を届けることができ、有効に予算を執行することができた。他の事業に関しても大幅な乖離が発生しないよう努めた。

【エビデンス】：結果、助成対象事業の全体の事業費は要望時の事業費に対し 85.86%で、20%以上の乖離を生じさせることなく完了させることができた。**【分析】**：それらを踏まえ、経費面・内容面両方において、事業費に見合ったアウトプットであったと言える。事業費は、すべての事業において特別な理由のあるもの（※）以外は、当初の設定予算から大きく違えることなく、また収支も問題なく推進できたため、達成したと評価する。

※その他特別な理由があり、計画と比較して乖離があったもの（予算 100 万円以上）については、

・人材養成 1：地域の魅力の担い手次世代養成事業 1 吹奏楽クリニック

当初 Osaka Shion Wind Orchestra 管楽器奏者による指導については、各学校に派遣して実施することを計画していたが、学校の要望によりプリズムホールに集合しての実施となったため大幅な減額となった。

・普及啓発 2：まちの魅力発見・発信事業 2 河内音頭やおフェスタ

3 月 19 日実施のため、助成金の対象として申請していたものの請求や支払いが期限までに間に合わなかった。

・普及啓発 4：舞台の感動リーチ事業芸術文化の課外授業①「劇団文学座による演劇ワークショップと読み聞かせ」学校行事と重なり申込が無かったため、代替え内容にて実施した。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【1. 総括評価】認める。劇場・音楽堂等が地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったかについて、下記の通り継続的に認められる。

【2. 劇場・音楽堂等を象徴する人物、鍵となる人物（キーパーソン）の存在】認める。

当館は財団雇用の館長と舞台長を設置しており、両名とも30年以上当財団において地域の芸術文化振興を担ってきた。館長は芸術事業の質の担保と会館の運営責任を、舞台長は舞台全体の責任を担っている。

事例1：館長のリーダーシップの元、7-8月の改修後のR0記念事業をミッション・ビジョンに基づき実施した。「八尾市芸術文化基本条例」と「八尾市芸術文化推進基本計画」の審議会委員として、館長が専門的立場から参加した。

エビデンス1：R0記念事業については助成事業だけで10事業を実施した。この10事業の参加者数は13,706人に達し、昨年度より約3,500人増となった。満足度は、目標値80%に対し、実績は93.4%だった。「芸術文化基本条例」と「芸術文化推進基本計画」は、当館のミッションと整合性がとれており、政策立案と実行が齟齬なく行えている。

事例2：舞台長は舞台全体の質の担保と舞台技術者の統括、舞台技術の責任を担い、利用者や芸術家の要望を確実に実現している。

エビデンス2：当年度の助成事業では「河内ゴスペル」、「吹奏楽フェス」、「大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会」、「河内音頭やおフェスタ」では、芸術家等と密に意思疎通を行い、舞台監督を務め成果を上げた。舞台利用アンケートの「思っていたとおりの舞台が実現か？」の回答では「その通り」という回答が100%であった。

分析：館長・舞台長を中心として経験豊富な専門職員が在職し、それぞれに能力を発揮し、地域住民に感動をもたらす芸術文化事業を実施するなど、地域の文化拠点としての機能を発揮した。

【3. 専属団体、フランチャイズ団体、提携団体の存在】認める。

事例：主な芸術団体との今年度の提携状況は下図のとおり。

当館の専門職員は、これら団体と緊密に連携をして事業を実施した。

芸術団体	提携内容
大阪フィルハーモニー交響楽団 ★地域拠点契約団体	公演事業・普及事業の実施・吹奏楽部生徒指導等
文学座 ★地域拠点契約団体	公演事業・普及事業の実施
Osaka Shion Wind Orcestra	吹奏楽部生徒指導
高安未来継承事業推進協議会	新能・公演事業・普及事業の実施
八尾本場河内音頭連盟	フェスティバル・普及事業の実施

【4. それらが実施した助成対象活動（計画）にどのように反映されたか】

提携している上記5団体に関しては、当館のミッション・ビジョンを共有したうえで、意見交換しながら事業のブラッシュアップをはかっており、その内容を事業に反映させることができている。

事例1：「大阪フィルハーモニー交響楽団」と「劇団文学座」の一流の芸術団体と「地域拠点契約」を継続的かつ積極的に締結した。地域に根差した公演にワークショップなどの普及啓発的な事業をセットして、市民との接点や交流の機会を増やし、作品への理解を深めた上で本物の舞台を提供した。

エビデンス1：これらの団体とはこれまでも連携しており、地域住民に対する公演事業や普及啓発事業への実績も豊富である。音楽・演劇・地域にゆかりの深い伝統芸能と様々なジャンルと連携してきたこれまでの経験を今年度も活かすことができている。

事例2：「高安能未来継承事業推進協議会」については、総会等の会議に当館の職員を参加させている。これにより、事業計画の時点で方針や方向性にブレが無いかを確認でき、更にその場で意見を言って方向転換してもらうことも可能となっている。

エビデンス2：このような関係性を構築することで、スムーズな事業実施をすることが可能となっている。協議会側の助成金申請に対しても助言など行い、結果、効率性でも記載したとおり助成金獲得に至っている。それにより、「高安能プロジェクト」を、更に地元の魅力を活かした魅力的な公演にバージョンアップすることができた。

分析：他の事業においても良好な関係性が構築されており、事業に反映できていると分析する。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

【1. 総括評価】認める。以下の内容により、地域の文化芸術の発展につながったと認められる。

【2. 連携のあった主な地域の機関や団体との関係】

地域の文化芸術の発展には、市民や地域団体の協力が必要となる。当年度は下表の団体と連携した。

事例：事業によって技術支援や定期的な会議等を実施し、事後には反省会やアンケートにより意向を確認した。

エビデンス：コミュニケーションは良好で、その結果、「観光や市民活動支援」、「市民の文化活動の発展」につながった。昨年度は43機関（団体）で、当年度は55機関（団体）と連携した。

今年度において連携のあった主な地域の機関・団体など(助成対象事業に限る)

八尾市	八尾市教育委員会 八尾市立小・中学校 夜間学級 計25校	高安能未来継承事業推進協議会
八尾本場河内音頭連盟	玉祖神社	八尾市消防本部
宗教法人グレース宣教会(八尾市)	八尾市人形劇連絡会	八尾市観光協会
ルフレ八尾	NPO法人輝	グリーンオフィスベルデ
八尾市内の高校4校	八尾市内の社会人バンド7団体	アリオ八尾
八尾市立病院	八尾市立心合寺山古墳	やおコミュニティ放送(株)
シルキーホール(八尾市)	近畿大学	相愛大学

分析：前年度より連携する機関・団体が12団体増え、十分に発展につながったと分析する。

【3. 具体的な事象】

具体的な地域の実演芸術等の振興や地域の文化芸術の発展については、下記のとおりである。

《公演事業》発展につながった。

事例「親子の演劇体験」では、子どもたちがその作品を楽しく深く味わうことで、豊かな心の形成に寄与することを目的に当館オリジナルの演劇作品を創作した。八尾市教育委員会と連携して、市内小学校招待公演により14校、合計1,179名が劇場で鑑賞し、良質の実演芸術に触れる機会を提供することができた。

エビデンス：＜鑑賞した小学校教員からのアンケート＞満足度目標値80%に対して、実績100%

- ・俳優の方々の表現力や声を直に見られたことで、児童たちも感動し、心が動かされていた。情操を養う上で高い効果を与えていただいた。演劇に興味をもつ児童が増えたように思う。
- ・物語の中に入り込んだような感覚があり、児童の感性が揺さぶられる経験になった。今後、演劇へあこがれる子や音読へもその効果があらわれると思う。など、たくさんの嬉しいお声を聞くことができた。

《人材養成事業》発展につながった。

事例：「子ども河内音頭講座」では、八尾本場河内音頭連盟と連携し、地元の音頭取りや踊り手等が講師として多く参加し、子どもたちの指導を充実させることができた。講座を修了した子どもたちは「八尾のこども河内音頭大使」として、イベントに出演し河内音頭を披露し、地元の魅力を発信する等、次世代の養成や地域の魅力発信にもつながっている。

エビデンス：＜参加した子どもたちのアンケート＞「まちの新たな魅力を感じた。印象がよくなった」実績53.8%

- ・河内音頭講座は楽しかったし、文化をもっと知りたいなと思った。
- ・これからも河内音頭を踊りたい。河内音頭は初めてだったが、もっと練習しようという向上心が生まれた。

《普及啓発事業》発展につながった。

事例：「吹奏楽フェス」では、市内中学校・高校、社会人バンドの演奏と、中学校・高校の最高学年による合同演奏、ゲストによる演奏など華やかなフェスティバルとなり、2,700人以上の集客ができた。実行委員会形式で、市民と企画運営をおこない、ホールと市民が一体感をもって取り組んだ。

エビデンス：＜鑑賞者からのアンケート＞満足度目標値80%に対して、実績88.6%

- ・我が子の成長、堂々とした演奏に感動した。コロナ禍で演奏や鑑賞の機会のない2年間だったので、子どもたちに披露する場を与えていただいたことに感謝している。発表の場があって、輝き、成長できるものだと思う。

＜出演者からのアンケート＞満足度目標値80%に対して、実績91.0%

- ・このフェスティバルのおかげで、自分の技術を高め、モチベーションを上げることができた。他校の吹奏楽部の人やスタッフの方々、吹奏楽と関係のある人たちと身近に会うことや演奏を聴くことができ、経験が増えてすごく貴重だった。

分析：地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながったと分析できる。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【1. 総括評価】認める。下記の結果、事業を通じて組織活動が今後も持続的に発展しうると認める。

【2. 事業運営】持続的な発展を認める。

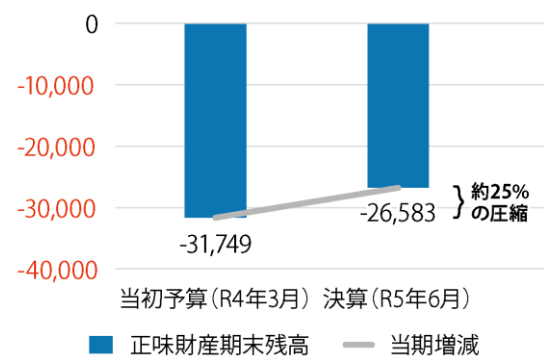
芸術文化事業運営：感染症の影響はあったものの予定した助成対象 22 事業は中止することなく全て実施した（事業内において、相手先の要望による実施辞退や、内容変更は一部あった）。R0 記念年となったことから、例年以上の規模・数の事業を一部人員減（※後述）の中、持ち前のチームワークで力を集結し乗り切った。

会館運営事業：改修工事後の会館引き渡しを 6 月に受け、短期間で清掃、設備稼働確認、備品設置、貸館再開及び開館準備など各対応を、一部人員減の中、セクションの枠を超えて全員参加で遂行した。貸館は、収益の柱である利用料金の確保のため、感染症や休館で離れてしまった利用者開発の強化も行った。

【3. 経営戦略】認める。

経営戦略に関しては計画当初に役員会等にて戦略課題を示し、その後結果を報告している。大規模改修により約 4 か月間の休館に加えて、感染症第 8 波の影響による施設利用料収益の減と、海外の紛争等に端を発する光熱費・物価の高騰による経費の増の結果、収支は赤字決算となった。一方で、費用では一部人員減による人件費の減、物件費の節減に努め、収益では個人・地域団体や企業からの協賛金等を集めた。加えて厚労省や文化庁からの補助金の獲得など、外部資金調達をし、収支の改善に努めた。エビデンス：令和 4 年度決算において、黒字化はできなかったものの、赤字額を当初予算額から約 25%改善し、予測不能であった令和 4 年度において、持続可能性を見せている。

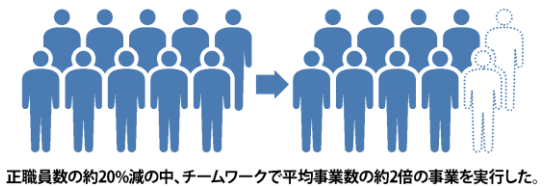
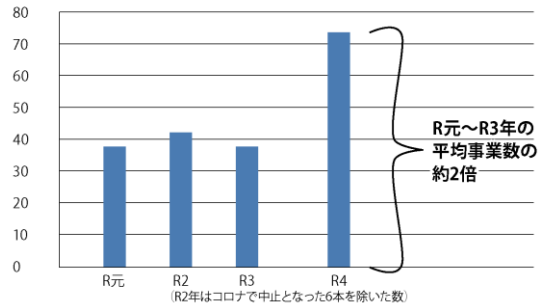
R4年度 正味財産額 当初予算と決算(単位:千円)



【4. 人事戦略】認める。

人材育成基本方針に基づく「一専多能工型・T字型人材」の育成により機動的な組織を目指し、人事評定や各種研修・配置の工夫を実施している。事例：令和 4 年度は改修休館後、開館対応、R0 記念事業など、例年に比して数多くの事業・業務を実施した。一方で年度途中で退職者があり人員減となった。正職員の募集と迅速なパート・専門職パート職員の採用を行った上、職員パワーを集結させ状況を克服した。エビデンス：機動的な組織力により、約 20%の人員減の中、平均の約 2 倍の事業を遂行した。

事業実施数比較



【5. 各方面とのネットワーク】広範な団体と連携を認める。

エビデンス：継続的に参加している全国公文協、近畿支部会、大阪府文化施設連絡協議会、府内の東部地区会議の 4 会議で施設間の情報交換を実施。事業面では、大学（近畿大学、相愛大学）、小・中学校（夜間中学校含む）・教育委員会、域内高校、医療・福祉施設（病院、母子施設、不登校スクール）、消防署、社寺、地域の文化的な活動団体（八尾市観光協会、地域 FM 局、市民活動ネットワーク支援センター）他多数とネットワークした。新しい取り組みとして、令和 4 年度は近畿大学（舞台芸術専攻「アーツマネジメント論」前期の講師）に職員を講師として派遣した。いずれの団体とも当館のミッションについて共有し継続的な協力関係を築き、持続的発展につながっている。

【6. PDCA サイクルによる改善と機能強化】認める。

現場から得た情報・知見・課題は、最前線である企画制作会議から幹部会議など内容に応じて各会議体に報告、その後、協議内容を現場におろし共有する仕組みを導入し、改善を図った。事例：「交流を生み出すアートなにぎわい創出事業」では、会館が想定するよりもはるかに「小さな悩み」を参加者が抱えていることについて担当職員らが確認。以後、そういった「小さな悩み」を扱うための取り組みを事業のフレームワークに組み込み、実施時に反映した。参加者からは好評を得た。この内容は、現場会議及び設置自治体とも共有。分析：このことにより応募者・参加者による同企画への理解が深まり、参加のためのハードルが低下した。PDCA サイクルが回っており改善と参加者拡大の点で持続的発展がみられた。